

第 61 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬	(株)	ミカルデイス	中外製薬	(株)	アクテムラ
第一三共	(株)	ネキシウム	大日本住友製薬	(株)	アイミクス
エーザイ	(株)	アリセプト	(株) ジェイ・エム・エス		
興和	(株)	リバロ	大塚製薬	(株)	エルカルチン
大塚製薬工場	(株)	ラコール	シーメンス・ジャパン	(株)	MAGNETOM Skyra
大鵬薬品工業	(株)	アロキシ	武田薬品工業	(株)	アジルバ
田辺三菱製薬	(株)	レミケード	(株) ツムラ		大建中湯
(株) ヤクルト本社		カンプト			

(ABC 順)

編集委員会

編集委員長：杉 山 篤

編集委員：石 井 良 和

島 田 英 昭

津 熊 久 幸

伊 豫 田 明 三 上 哲 夫

周 郷 延 雄 高 橋 寛

瓜 田 純 久 (ABC 順)

編集後記

東邦医学会雑誌第 61 巻第 6 号をお届けします。お手元に冊子が届くころには新しい情報が皆様が届いているかもしれませんが、現在、東邦医学会雑誌の英文誌創刊に向けて、誌名をどうするか議論が続いております。将来的に PubMed への掲載、そして impact factor の取得を視野に入れるとなると、いろいろな条件が絡んでくるということです。例えば誌名に地名 (Japanese, Tokyo など) が入ると、「日本語の雑誌？」という誤解を持たれたり、投稿が日本の情報に限定されていると取られる可能性が高くなり、国際誌に求められるグローバル性が低いとされてしまうリスクが高まってしまいます。また、Toho の語を入れた場合、海外からは「Toho とは何か？」という反応が想定されますが、ホームページや誌面で東邦大学 (Toho University) が発行しているジャーナルであるということを明確に説明できれば、将来、この英文ジャーナルが東邦大学の「顔」になるということを期待できます。しかしながら誌名に Toho University とまで入れてしまうと、逆に査読者や読者が東邦大学の関係者に限定されるイメージになってしまい、好ましくないということです。

編集委員からいろいろな誌名の案が挙がったのですが、医学のジャーナルであること、東邦大学医学部が発行しているジャーナルであることが分かりやすいという点から、「Toho Medical Journal」, 「Toho Journal of Medicine」などが有力案となっております。この件に関して、海外の大

学のホームページなどを覗いてみましたが、「Proceedings of ○○ University」のような誌名は現在少数派で、「△△ Journal of Medicine」のような「University」のない誌名が多くなっているようです。海外の大学でも、大学の持つ出版物の知名度あるいはグローバル性を高めようとしているのでしょうか。

さて、誌名に関わらず、本誌を盛り上げていくためには一にも二にも記事の充実が欠かせません。他所から山のような投稿が来るようになるまでは、学内で雑誌を育てていかなければならないと思いますので、皆様よろしくお願いたします。

(三上哲夫)

東邦医学会雑誌 第 61 巻 第 6 号

平成 26 年 11 月 1 日発行

編集兼 杉 山 篤
発行人〒143-8540 東京都大田区大森西 5 丁目 21 番 16 号
東邦大学医学メディアセンター内

東 邦 大 学 医 学 会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原 3-46-10

株式会社 杏林舎